

平成29年度
市政レポーター(とまレポ)
活動報告書

平成30年4月

苫小牧市総合政策部協働・男女平等参画室

目 次

1	苫小牧市市政レポーター制度について	1
2	平成29年度市政レポーター活動実績	
3	平成29年度市政レポーター活動概要	2
	(1) 委嘱式及び事業説明会	
	(2) 第1回とまレポ活動	
	(3) 第2回とまレポ活動	
	(4) 第3回とまレポ活動	
4	市長懇談会	30
5	レポーターからの意見と市の考え方	49

附録

- 平成29年度市政レポーター名簿
- 苫小牧市市政レポーター設置要綱
- アンケート結果
 - 第1回 とまレポ活動 参加者アンケート
 - 第3回 とまレポ活動 参加者アンケート
 - まちな魅力おすすめ度チェック結果

1 苫小牧市市政レポーター制度について

市政レポーター制度は、市政に関する御意見や御提案をいただき、市政運営の参考とすることを目的としています。平成29年度は「地域（まち）の魅力」をテーマとして参加者の皆さんによる意見交換を中心に、地域の魅力を生かしたまちづくりについて御意見や御提案をいただきました。活動に御参加いただきました市政レポーターの皆様には、改めてお礼を申し上げます。

本報告書は、平成29年度市政レポーターの活動を取りまとめたものです。今後もいただいた御意見を基に、より良い市政運営を進めていきたいと考えています。

2 平成29年度市政レポーター活動実績

開催日	活動内容	概要
平成29年5月1日	委嘱式及び事業説明会	・市長からレポーターへ委嘱状を交付 ・事業概要の説明
平成29年7月10日	とまレポ活動（第1回）	ワールド・カフェ 「魅力を生かしたまちづくりにするには」
平成29年8月24日 29日	とまレポ活動（第2回）	視察 まちなか産学連携事業「地域再生システム論」
平成30年1月29日	とまレポ活動（第3回）	グループワーク 「魅力創造ワーク」
平成30年2月	意見書提出	各自より意見書を提出
平成30年3月19日	市長との懇談会	・市長へ事業内容を報告 ・活動内容に関してレポーターと市長と懇談

3 平成29年度市政レポーター活動概要

(1) 委嘱式及び事業説明会

<委嘱式>

- ① 日 時 平成29年5月1日 14時から14時30分まで
- ② 場 所 苫小牧市役所本庁舎 5階第2応接室
- ③ 出席者 市政レポーター9人
- ④ 内 容 市長から委嘱状を交付、レポーターの自己紹介、市長と懇談

<事業説明会>

- ① 日 時 平成29年5月1日 14時30分から15時30分まで
- ② 場 所 苫小牧市役所本庁舎 9階91会議室
- ③ 出席者 市政レポーター9人
- ④ 内 容 制度概要及び活動内容について説明、質疑応答

委嘱式で苫小牧市長から委嘱状の交付を受けた後、事業説明会を行いました。事業説明会では、今後の予定の説明の他に、レポーターの皆さんと事務局担当職員で自己紹介を交えながら懇談しました。懇談では、苫小牧でのお気に入りのスポットを紹介し合い、「サンガーデン」「陸橋から眺める樽前山」「日本一長い直線線路」等が話題にのぼりました。



(2) 第1回とまレポ活動

- ① 日 時 平成29年7月10日(月) 14時から16時まで
- ② 場 所 苫小牧市役所第2庁舎 2階会議室
- ③ 出席者 市政レポーター9人
- ④ 内 容 ワールド・カフェ形式による意見交換
- ⑤ テーマ 「魅力を生かしたまちづくりをするには」
- ⑥ 資 料 資料1のとおり
- ⑦ その他 活動後にアンケートを実施した。(附録のとおり)

ワールド・カフェ形式で、参加者全員で苫小牧の魅力について話し合いました。苫小牧にはたくさんの魅力があるものの、「埋もれた魅力が多い」、「もっと情報発信に工夫が必要」、「集まれる場所がほしい」などの意見が出されました。



**Welcome to
Tomarepo CAFÉ !**



**2017.7.10
14:00 OPEN
16:00 CLOSE**

第 1 回 とまレポ活動

**とまレポカフェへ
ようこそ！**

「ワールド・カフェ」
に参加したことのある方？

ワールド・カフェとは・・・

会議室で日々繰り返される機能的な会議
よりも、
「カフェ」で行なうような、オープンで自由な会話
を通してこそ、
生き生きとした意見の交換や、新たな発想の誕生が
期待できる、という考え方に基づいた話し合いの手法



「他花受粉」

- ミツバチによる「他花受粉」とは
 - ・花から花へ、花粉を体につけて飛び回る
 - ・花粉は、どんどん拡がっていく
 - ・異なる遺伝子が出会い、新たな種が生まれる

⇒（ワールド・カフェでは・・・）
自分が最初に話したテーブルでのアイデアが、この「他花受粉」のように、どんどん他のテーブルへと拡がり、交わり、新たな発想が生み出される

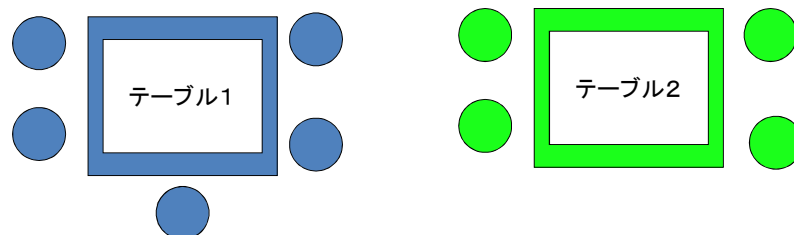
「ワールド・カフェ」の進め方

- ・ カフェスタイルのテーブルに4人で座る
※4人は「聞く」「話す」のバランスが最も良い
- ・ 20分～30分の会話を3ラウンド行い、各ラウンドでメンバーを入れ替える
- ・ テーブルの上に拡げてある模造紙に、自由に書き込みをします



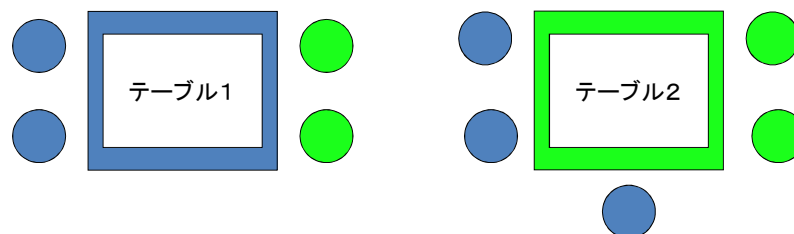
「ラウンド1：テーマの探求をする」

- 各テーブルの中で、テーマについて自由に話し合いを行い、探求をします
- 気づいたこと、発見したことなどを、敷いてある横道紙に自由に落書きOK



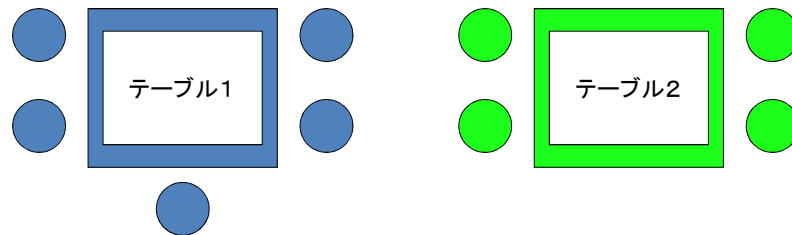
「ラウンド2：アイデアを他花受粉する」

- 「ホスト」2人をテーブルに残して、他の人は、隣のテーブルに移動します
- 「ホスト」は、ラウンド1でどんな話があったかを、そのテーブルに来てくれた人と共有し、それを聞いた方も意見を述べて、探求を深めます



「ラウンド3：持ち帰って統合する」

■最初のテーブルに戻り、ラウンド1、ラウンド2で得られた発見や気づきを共有し、話し合いを深めます



エチケット

対話を楽しむ

“質問”して広げる

否定しないで、受け止める

リラックス

アイデアや思いついたことを
書く！描く！つなぐ！

みなさん、今いらっしゃる席を
お立ちいただけるでしょうか？

本日のテーマ

「魅力を生かしたまちづくりをするには」

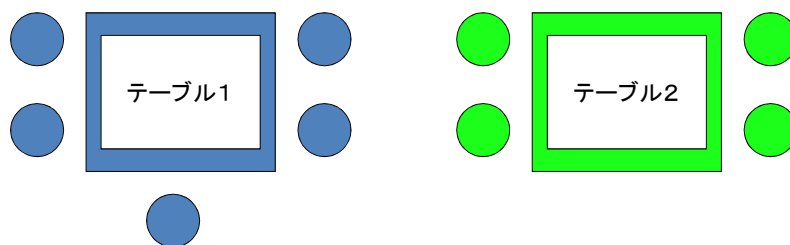
模造紙の中央に、
大きくお書きください

ラウンド1のテーマ

「苦小牧について魅力や自慢したいことがあるとしたら、それは何でしょうか？
場所など目に見えることでも、人々の
気質など目に見えないことでも構いません。」

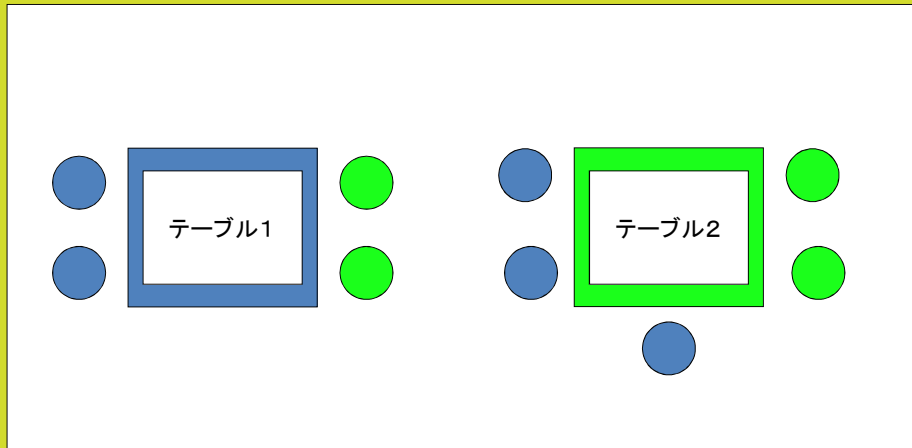
「ラウンド1：テーマの探求をする」

- 各テーブルの中で、ラウンド1のテーマについて自由に話し合いを行い、探求をします
- 気づいたこと、発見したことなどを、敷いてある横道紙に自由に落書きOK



「ラウンド2：アイデアを他花受粉する」

- 「ホスト」2人をテーブルに残して、他の人は、隣のテーブルに移動します
- 「ホスト」は、ラウンド1でどんな話があったかを、そのテーブルに来てくれた人と共有し、それを聞いた方も意見を述べて、探求を深めます



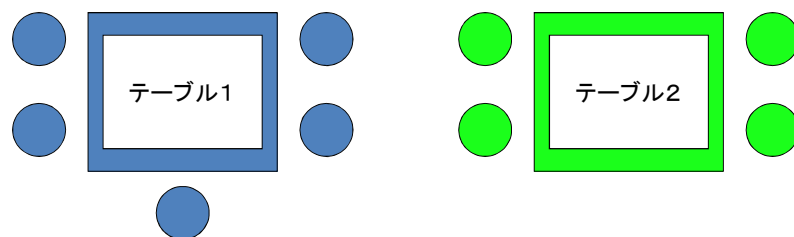
ラウンド2のテーマ

「100年後の苦小牧に住んでいる人々が誇りに思える苦小牧ならではの価値があるとしたら、それはどのようなものでしょうか？」

～「ホスト」は、ラウンド1でどんな話があったかを、そのテーブルに来てくれた人と共有し、それを聞いた方も意見を述べて、探求を深めます～

「ラウンド3：持ち帰って統合する」

■最初のテーブルに戻り、ラウンド1、ラウンド2で得られた発見や気づきを共有し、話し合いを深めます



ラウンド3のテーマ

「ラウンド1や2で出た魅力や価値を生かすことで、苦小牧がどんなまちになっていったらよいと思いますか？
そのために、自分でできることや挑戦してみたいことがありますか？」

～ラウンド1、2で得られた発見や気づきを共有しましょう～

ふりかえり



次回の活動

まちなか産学連携推進事業の視察

8月24日（木）13：00～16：30

会場：市民会館小ホール

内容：講義

29日（火）13：00～16：40

会場：文化交流センター

内容：学生による発表

(3) 第2回とまレポ活動

<活動1日目>

- ① 日 時 平成29年8月24日(木) 13時から16時30分まで
- ② 場 所 市民会館3階 小ホール
- ③ 出席者 市政レポーター8人
- ④ 内 容 地域づくりを実践する講師による講演を視察
- ⑤ テーマ まちなか産学連携事業「地域再生システム論」
- ⑥ 講 義
 - ・王子製紙株式会社
「王子製紙苫小牧工場について」
 - ・苫小牧港管理組合
「苫小牧港管理組合について」
 - ・一般社団法人苫小牧観光協会
「コミュニティの力について」
 - ・公益財団法人日本野鳥の会
「ウトナイ湖の自然とこれからの展望について」
 - ・苫小牧駅前通商店街振興組合
「苫小牧駅前通商店街の取組について」
 - ・苫小牧市総合政策部まちづくり推進室まちづくり推進課
「小樽・室蘭・苫小牧の3市の比較について」
 - ・苫小牧市総合政策部まちづくり推進室まちづくり推進課まちなか再生主幹
「まちなかの現状と課題について-なぜ、まちなか再生を進めるのか?-」



<活動2日目>

- ① 日 時 平成29年8月29日（火） 13時から16時40分まで
- ② 場 所 文化交流センター 1階多目的ホール
- ③ 出席者 市政レポーター7人
- ④ 内 容 室蘭工業大学・小樽商科大学の学生による発表を視察
- ⑤ テーマ まちなか産学連携事業「地域再生システム論」
- ⑥ 発 表
 - ・ 市中心部に紙の建築
 - ・ エガオを若者が集まる施設に
 - ・ 商店街でフリー落書きイベント
 - ・ 「日本の1/4は俺たちだ」のスローガンを活用 他

苫小牧市（総合政策部まちづくり推進課まちなか再生主幹）が室蘭工業大学と小樽商科大学と連携して地域づくりやまちづくりを実践している講師から地域活性化のヒントを得るとともに、実現可能な地域再生の方策を考えるために行われた授業を視察しました。

視察は、全4日間の授業のうち、講師による講義と「日本一の紙のまち」をテーマに学生がまとめた政策発表について行い、参加者からは「他の地域の学生のアイデアが勉強になった」「紙のまちをアピールするために自分からも工夫を提案したい」といった意見が出されました。

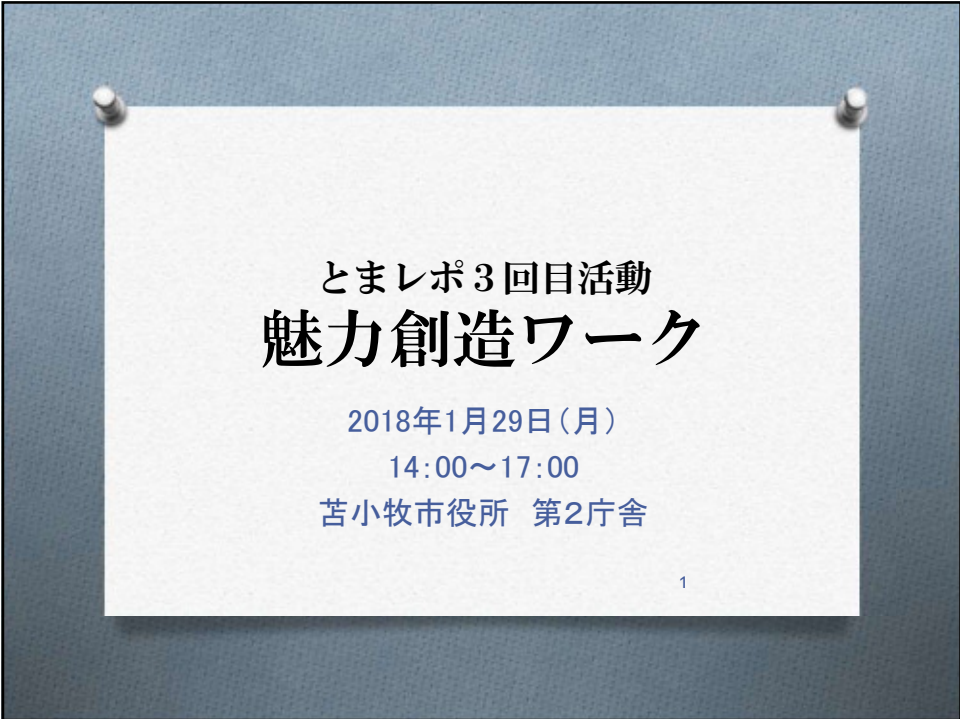


(4) 第3回とまレポ活動

- ① 日 時 平成30年1月29日(月) 14時から17時まで
- ② 場 所 苫小牧市役所第2庁舎 1階会議室
- ③ 出席者 市政レポーター8人
- ④ 内 容 グループワーク「魅力創造ワーク」
- ⑤ テーマ 「地域の魅力を生かしたこれからのまちの姿」
- ⑥ 資 料 資料2のとおり
- ⑦ その他 活動後にアンケートを実施した。(附録のとおり)

2つのグループに分かれ、地域の魅力を生かしたこれからのまちの姿について話し合いを行いました。ワークでは、グループでまちの魅力を挙げ、魅力が人に与えることができる力を考え、それらの力を総合してまちのこれから目指していく姿として地域ブランドメッセージ案をまとめていただきました。それぞれのグループからは「市と住民と事業者が連携し、多世代が住み良い苫小牧」、「新しいモノ・コトをつくるとまこまい」という案が出されました。





突然ですが、質問です。

「あなたは、今日取り上げる地域(まち)の魅力を、友人にどの程度の気持ちでおすすめしたいと思いますか。もっとも強い気持ちを10、全くない場合を0としたら、いかがでしょうか。」



3

シティプロモーションとは

「地域(まち)に真剣(マジ)になる人を増やすしくみ」



東海大学文学部
河井 孝仁 教授



著書:
『シティプロモーションでまちを変える』
(彩流社、2016)

4

ワークで行うこと

- まちの魅力から、
【ここに住む人が幸せになれる】物語を考える。
- 物語から『〇〇な人が、〇〇できるようになる力』を抽出し、まちのこれから目指していく姿として、地域ブランドメッセージの案を考える。

5

地域ブランドメッセージ？

市民がこのまちの魅力を生かして、どんなまちにしていきたいと考えて、それを一文にまとめたもの。

【考え方のポイント】

- どんなまちだったら、まちづくりに参加したくなる？
このまちのことを人に伝えたいかな？
- さまざまな理由でまちづくりに参加できなくても、
どんなまちだったら、そのまちのために働いている人々に感謝の気持ちを感じたり、その活動を人に伝えたり、まちの魅力を伝えたいかな？

6

手順

- 1 発散と共有
↓
- 2 人物像の設定
↓
- 3 物語の設定
↓
- 4 地域(まち)の力の抽出(発表)

7

ステージ1 発散と共有

- 各テーブルで、魅力を書いた付箋を貼る。
- 必ず5つのカテゴリすべてに魅力をそろえる。
- 全体を見渡して、更に思いついた魅力があれば、追加して書き足す。
- 魅力がどのカテゴリになるかについては、魅力を書いた方の考えにお任せします。



勇払原野開拓記念碑
千人同心顕彰碑 8

ステージ2 人物像の設定

- まちの魅力をしっかりと見渡した上で、まちが幸せにできる想像上の人物像を3人設定する。
- 2人(A・B)は【まちの魅力を活用することで、困難な状況から幸福になれる】人物像。
- 1人(C)は【まちの魅力を活用することで、『野望』を実現できる】人物像。

9

ステージ2 人物像の設定

3人の人物像について、下記を具体的に決める。

- 名前・性別・年齢
- 仕事
- 居住地・家族構成
- 大事にしていること
- A・Bについては、どのような困難か
- Cについては、どのような野望か



10

ステージ2 人物像の設定

- 3人の人物像ひとりひとりにA4用紙を用いて設定を書く。
- 白紙の模造紙の上部に、それぞれのA4用紙を貼る。



11

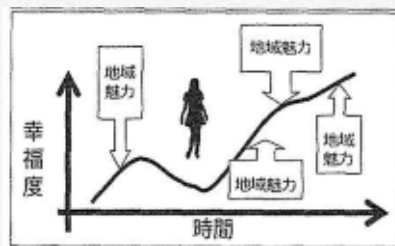
休憩

- ここで5分間休憩をとります。

12

ステージ3 物語の設定

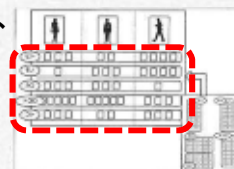
- それぞれの人物像が、まちの魅力を使いこなしつつ、幸せになれる物語を作る。



13

ステージ3 物語の設定

- 付箋に書いた魅力をそれぞれ15個以上使用し、
A・B→困難を克服し、幸せになる物語
C→困難を克服し、野望を実現する物語
グループで意見交換しながら作っていく。
- 人物像を記載したA4用紙の下に、
利用した魅力の付箋を貼る。



14

物語を設定する際の注意点

- 3人とも、一旦挫折する設定にすること。
- 挫折の原因には、まちの魅力は用いないこと。
- 新たに魅力は追加しないこと。
- 人物像の属性は適宜変更できること。
- 物語は模造紙に記載せず、メモに記載すること。

15

休憩

- ここで5分間休憩をとります。
- とんりのグループの人物像設定なども覗いてみてください。

16

ステージ4 地域(まち)の力の抽出

- A・B・Cそれぞれに貼られた魅力をひとつのまとまりとし、そのまとまり(魅力群)が持つ力に注目して【名前】をつける。

【名前】とは…

『〇〇な人が、〇〇できるようになる力』

	〇〇な人が、 〇〇できるようになる力	〇〇な人が、 〇〇できるようになる力	〇〇な人が、 〇〇できるようになる力
ヒト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
モノ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カゴ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
トコロ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

17

ステージ4 地域(まち)の力の抽出

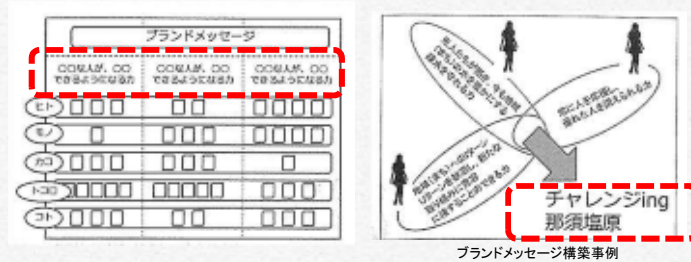
- それぞれの空欄に、『〇〇な人が、〇〇できるようになる力』を書く

	〇〇な人が、 〇〇できるようになる力	〇〇な人が、 〇〇できるようになる力	〇〇な人が、 〇〇できるようになる力
ヒト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
モノ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カゴ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
トコロ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

18

ステージ4 地域(まち)の力の抽出

- 3つの魅力群を重ねて考えられる内容をもとに、地域ブランドメッセージを考える。



19

ステージ4 地域(まち)の力の抽出

- 1人2つ、地域ブランドメッセージ案を考える。
- それぞれの案を1枚ずつ付箋に記載する。
- 付箋の内容をグループ内で発表し、意見交換する。

20

ステージ4 地域(まち)の力の抽出

- グループで1つの地域ブランドメッセージ案を設定する。
- メンバーのいずれかの案を選んでもよいし、いくつかの案を組み合わせる新しく作ってもよい。

21

ステージ4 地域(まち)の力の抽出

- 確定した地域ブランドメッセージ案を模造紙上部の余白に記載する。

ブランドメッセージ		
〇〇人が、〇〇 できるよくなる力	〇〇人が、〇〇 できるよくなる力	〇〇人が、〇〇 できるよくなる力
ヒト	□□□	□□ □□□□
モノ	□	□□□ □□□□□
カネ	□□□	□□□ □
トコ	□□□□	□□□□ □□□
コト	□□□	□□ □□□

22

地域ブランドメッセージ案 構築にあたって

- 「すでにこうである」ではなく、「今を踏まえて、未来に向けて、市民とともに、こういうまちをつくる」というメッセージを設定する。
- 改めて説明しなければいけない造語は用いない。
- 「私たちのまちはこうしたまちになる力を持っている」「私たちのまちはこういうまちなろうとしている」という未来への思いを！



宇都宮市 地域ブランドメッセージ
「住めば愉快だ 宇都宮」 23

地域ブランドメッセージ案の 発表

- A・B・Cの人物像の設定
- それぞれの人物像の物語
- 魅力群「〇〇な人が、〇〇できるようになる力」を設定した理由
- 魅力群の重なりからどのように地域ブランドメッセージ案を抽出したのか
- 発表時間は、1グループ、8分程度

24

アンケート記入

- 「地域(まち)の魅力おすすめ度チェック」設問2の回答をお願いします。
- 「参加者アンケート」の記入をお願いします。
- 記入が終わったら、お帰りの際に、担当まで提出してください。



25

事務連絡

- 市長との懇談会
3月19日(月) 14:00～15:00
場所 調整中(本庁舎内)
- 発表内容の打合せ
日時について、発表者と調整します。
- 意見書・口座振込書・個人番号の提供
2月20日(火) 必着(郵送・持参問わず)

26

4 市長懇談会

- ① 日 時 平成30年3月19日（月） 14時から15時まで
- ② 場 所 苫小牧市役所本庁舎 5階 第2応接室
- ③ 出席者 市政レポーター6人
- ④ 内 容 活動報告、市長との懇談
- ⑤ 資 料 資料3のとおり

<レポーターからの意見と市長コメント（要旨）>

- ・地域にはお元気な高齢者がすごく多い印象がある。また、自分自身が子育て中で、家にこもりがちになってしまうので、札幌にある川下公園のように高齢者の方たちと小さな子どもたちが触れ合える場所があればいいと思う。
- ・ライターという職業柄、苫小牧をもっとよくしたいとか、盛り上げたいと思っている人に多く出会うが、まだまだ知られていないという声を聞いて、もっともいろんな世代の方に魅力を伝えていきたい。また、ピッピ千歳のような施設はぜひ苫小牧でも実現してほしい。

【市長コメント（要旨）】

今の時代、非常に求められていることだと思っており、できるだけ早く展開をしたいと思っている。ピッピ千歳のような規模は難しいが、ひとつの案として、そのような場を駅前で開催できないかということと、これから建設する予定の市民ホールは「サード・プレイス」をコンセプトにしている施設なので、人々が用事がなくても時間を過ごしたり、コミュニケーションがあるようなゾーンを作りたいと考えている。



- ・ 苫小牧で5年間過ごしたが、市政レポーターになるまで、苫小牧のことを知ろうとしていなかった。最近、高校3年生のロックバンドがデビューしたり、アイスホッケーのスマイルジャパンでも選手が10人選ばれたり、若い人たちが何かをしていこうというのがまちの魅力になっているのではないかと思うようになった。苫小牧市の西部地区で暮らした中で、大きめの商業施設や図書館など中央部以東にあるため、隔離されているようで、生活しにくいと感じた。

【市長コメント（要旨）】

東西バランスについては、約20年かけて沼ノ端地区の人口が3万人になった。苫小牧を中央と西、東に分けると、まだ西側の人口が多いが、高齢化率は高い。東側は今人口も伸びているが、非常に高齢化率が低いという状態。東西に長く40キロ以上ある地形は、都市経営の観点からいえば非常に非効率的で、その中でどう経営していくのかが自分にとっても課題である。

- ・ 先日小樽に旅行に行った際、坂の多さに驚き、逆に苫小牧の平坦さを魅力として見直した。道の平坦さを何か魅力として生かしたらいいと思った。

【市長コメント（要旨）】

人口10万人以上の都市で、苫小牧は街路樹比率が北海道1位であったり、人口を比較した都市公園が北海道1位であったりするにも関わらず、地形が小樽のように立体的でないために、緑が生えず、情緒がないと言われてきた。ただ、坂がある地域は除雪費用も莫大という点では、比較的苫小牧市は恵まれている。道の平坦さの利点やいいところを見直すべきだと思う。

- ・ こども食堂を運営する中で、人々が意外と孤立していることを実感している。子供の頃から苫小牧が企業城下町であり人間味のあるまちではないという話はあったが、40年ぶりに帰ってきてあまり変わっていない。まちやこども食堂、フードバンクなどがもっと連携して、そういった子供達の存在をもっと市民全体が市の全体の問題として認識してもらえるように活動していきたいし、そういう中で苫小牧を元気にしていきたい。

【市長コメント（要旨）】

こども食堂の運営、ありがとうございます。日本全国のトレンドとして全国各地でこども食堂が増えているということもあり、先日あるこども食堂を視察してきた中で、主催者以上にボランティアの方々が多く、色んな方たちでボランティアが構成されているのが非常にいいと思った。お母さんも一緒に来る方もいるが、居場所としては非常に有効な時間だと思い、居場所づくりのようなものをしっかりとコミュニティの中でどう吸収して展開できるのかということ非常に新鮮に受け取らせていただいた。フードバンクなど様々なサポートの仕組みがもう少しあればもっと楽に展開できるのだろうなと思っているので、一度機会があれば見せていただきたい。

- ・市民ホールの構想には、サード・プレイス、用事はないけれど、そこに行けば何かあるので立ち寄る場、というコンセプトがあると伺った。京都での生活には「用事はないけれど、何かする」という感覚が普通にあった。しかし、普段からそういった感覚に触れていない方にとっては「用事がなければ何もしない」というのが当たり前で、「用事はないけど、何かする」と思うこと自体が、ある意味、文化や感覚、技術に近いものなのかもしれないと思う。自身でも、昨年「やりたい人がやりたいことをできる場所」としてのお寺を掲げてきたが、そのような人に出会うことが難しいことと、「何もないけれどここに行ったら何かある」という感覚を作ることも難しいと感じて、まずは、その感覚づくりからやらなければいけないのかなと思っている。
- ・何をするにしても、結局のところ、人を介さないとは何もできないので、人の魅力を伝えていくということが一番だと思う。何か実現したいことがあっても、人とつながりがなければできない。例えば、紙のまちということで何か苦小牧の魅力的な製品をつくりたいと思っても、どこの企業にお願いしたらよいかかわからない。アーティストを呼ぼうにも、何か困っている方を呼ぼうにも、人とつながれない。つながろうと思うとよくわからない組織を介していかなければならないので、その信頼性を市が担って、人と人の魅力をつなぎコミュニティの基盤をつくっていただけたら、団体や企業などがそれをどんどん活用していけるのではないかなと思う。

【市長コメント（要旨）】

ぜひ、具体的な提案があったらどんどんしてきてほしい。全国のコミュニティや地域で、お寺がサード・プレイスのようなものとして機能していたり、いろいろなことをやっているのをたまたまテレビで見る機会がすごく増えてきている。お寺の本来のこととは別に、その空間もある意味で居場所みたいなものを提供している。おそらく、そういうことが、時代のニーズなんだろうと思っている。



平成29年度 市政レポーター 市長懇談会

平成30年3月19日(月)

14:00～15:00

苫小牧市役所5階 第2応接室

活動報告

とまレポ事務局より

活動テーマ

このまちにも
実は、深い歴史が
あるのを知っている。

このまちで輝く
カッコイイ人を
知っている。

「地域(まち)の魅力」

このまちの
とっておきの景色を
知っている。

このまちの
「ステキ！」を
探してみたい。

活動概要

- 市政レポーターの目的
市政に関する市民の意見、提案等を把握し
市政運営の参考とすること。
- +
- 今年度の目標
地域に対する「いいね！」という気持ちを増やして、
魅力を広めたり、地域に関わるきっかけをつくる。

実施した《とまレポ活動》

1回目 ワールド・カフェ(29/7/10)

2回目 視察 (29/8/24,29)

3回目 グループワーク(30/1/29)

1回目 ワールド・カフェ(29/7/10)

テーマ

「魅力を生かしたまちづくりをするには」

- 苦小牧の魅力や自慢したいことは？
- 100年後でも誇りに思える苦小牧の価値は？
- 魅力や価値を生かして苦小牧が
どのようなまちになっていったらよいか？

1回目 ワールド・カフェ(29/7/10)



魅力を生かしたまちづくりをするには・・・

□ 情報発信を強化しよう

「埋もれた魅力が多い」「情報をもっといろんな人に」
「イオンの中に地域の情報を知れる場所がほしい」「#(ハッシュタグ)で情報」
「市のHP 写真がなくてさみしい、字ばかりで読みづらい」

□ 苫小牧に行こう！をつくろう

「苫小牧→札幌は多いが、市外→苫小牧は少ない」
「これぞ苫小牧」「若者にとっての魅力」「グルメが少ない」
「グローバル的魅力」「宿泊してみるもの」

□ 集える場をつくろう

「異世代」「同世代」「地域」「知恵のある高齢者」「ふらっと人がくるところ」
「お母さん達の集い場所」「屋根付き公園」

2回目 視 察 (29/8/24,29)



2回目 視 察 (29/8/24,29)

まちなか産学連携事業

「**地域再生システム論**」 (室蘭工業大・小樽商科大・苫小牧高専連携授業)

テーマ 「日本一の紙のまち」

内 容 王子製紙を中心に栄えてきた都市・苫小牧市が紙のまちとしてのアイデンティティをもちながら中心地を発展させる方策について学生たちがフィールド調査やグループワークを実施して提案する。

視察内容

①地域づくりを実践する講師による講義(8月24日)

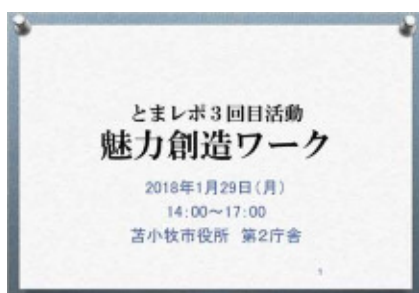
講師 王子製紙(株)、苫小牧港管理組合、苫小牧観光協会、
日本野鳥の会、苫小牧駅前通商店街振興会、
苫小牧市(まちづくり推進課、まちなか再生主幹)

②学生によるプレゼンテーション発表(8月29日)

SWOT分析による政策提案

- 例・市中心部に紙の建築
- ・エガオを若者が集まる施設に
 - ・商店街でフリー落書きイベント
 - ・「日本の1/4は俺たちだ」

3回目 グループワーク(30/1/29)



3回目 グループワーク (30/1/29)

「魅力創造ワーク」 東海大学文学部 河井 孝仁教授 考案

- ①「まちの魅力」を挙げる。
- ②魅力が「人」に与える「力」を考える。
- ③「力」を総合して、
「まちのこれから目指していく姿」として
「地域ブランドメッセージの案」を考える。

地域ブランドメッセージ案①

市と住民と事業者が連携し、
多世代が住み良い苫小牧



地域ブランドメッセージ案①

市と住民と事業者が連携し、
多世代が住み良い苫小牧

シングルマザーが
地域の人をつながり、
金銭以外の(子育てなど)
経済的問題を解決
できるようになる力

独居老人が孤立せず
安心して暮せるまち作り
に、市や市民・事業者
一体で取り組める力

市長が
市内のスポーツ・自然・
行事(イベント)を活用し、
「苫小牧の魅力」を
発信できる力

シングルマザーが地域の人をつながり、金銭以外の
(子育てなどの)経済的問題を解決できるようになる力

2人の子どもを育てながらパートを掛け持ちするシングル
マザー(30代)の物語

- ・「子育てに協力的で安心してこどもを育てられる」
環境や「力をもてあました高齢者」の力で子育て
中の困難を乗り越える。
- ・「サンガーデン」「科学館」などが地元があり、
「公園が多い」ため遠くに行かずに、自分の時間や
子どもとの時間を大事にできる。また、「図書館の
周辺が充実している」「こども食堂」「スポーツ
都市宣言」など子どもの教育に役立つや取組がある。

「独居老人が孤立せず安心して暮せるマチ作りに市や
市民・事業者一体で取り組める力」

夫の他界後、子と疎遠で孤独死や経済的な不安を抱える
女性（80代）の物語

- ・ 孤独を抱えている中「地域食堂」で人とつながったり
支援を受けたりすることができる。
- ・ 「仏教会に寛容」な土地柄で、お骨や葬式等の問題に
ついて市が宗教者と協力的に関われる。

市長が市内のスポーツ・自然・行事(イベント)を活用し、
「苫小牧の魅力」を発信できる力

市民の幸せと人口の増加を願う市長(60代)の物語

- ・ 「アイスホッケーの歴史」「駒大苫小牧高野球部の活躍」などの
スポーツ、「樽前山」「樽前ガロー」「金太郎池」「ウトナイ湖」
「白鳥」などの自然、「コスプレフェスタ」「若者中心の野外フェス」
などの行事、「IR構想」や「アルテン」「ぷらっと港市場」などの
観光スポットなど充実した観光資源があり、地域からは「田中将大」
選手「SHOKICHI」さんなどの著名人を輩出している。魅力を発信する
ための素材はあるが、今一步発信できていない。
- ・ 魅力に加えて「マチの人のつながり」を重視することで、多世代の
住民が暮らしやすくなり、地域の魅力が相乗的に高まる。
- ・ また、行政と住民と事業者が連携して情報発信を行い、それが成功
することで、他市からも人を引き寄せることができるようになる。

地域ブランドメッセージ案①

市と住民と事業者が連携し、
多世代が住み良い苫小牧



地域ブランドメッセージ案②

新しいモノ・コトをつくとまこまい



地域ブランドメッセージ案②

新しいモノ・コトをつくるとまこまい

子育て中の女性が
仕事ができるように
なる力

市外の大学へ
行こうと思っている
人が地元で学び、
地元還元して
くれるような力

何か事業したい
人が地域の魅力を
使って事業ができる
力

子育て中の女性が仕事ができるようになる力

夫と2人の子どもがいる広告デザイナー（30代）の物語

- ・ 広告デザインの仕事をしていたが、作品に批判を受けて挫折。しかし「新しいイベントを企画する人」に出会い「雑貨のイベント」が生まれ、企画の仕事に携わるようになった。
- ・ 苫小牧が「雑貨のまち」として知名度が上がり、「夏が涼しい」「気候がよい」などの気候や「札幌や空港が近い」立地を生かした集客力でイベントが成功。「ウトナイ湖」や「樽前山」といった魅力的な土地でイベントを展開していく。
- ・ 余暇には「公園」や「サンガーデン」で子どもと時間を過ごして、リフレッシュする。

市外の大学へ行こうと思っている人が地元で学び、地元に戻元してくれるような力

リストラの危機に直面する市内大学教員(40代)の物語

- ・入学生が少ないことで、人員整理の対象者リストに入ってしまった。しかし、「樽前山」「ウトナイ湖」「自然が豊か」「白鳥」などの地域の魅力の発信をテーマに研究し、研究成果を地域に戻元していく中、地元や近隣からの入学生が増えて、研究を継続することができるようになった。
- ・研究には「若者と高齢者の交流」を含んだことで、新たな魅力を確認できた。
- ・「サンガーデン、科学館、図書館のまわりが充実している」ことで学ぶ人、教員が活用できる。「特急が停まる」ことで市外からも通学しやすい。

何か事業したい人が地域の魅力を使って事業ができる力

東京からUターンして地元で起業を目指す男性(20代)の物語

- ・東京で大学を卒業後、東京で就職したが、勤務先が倒産し、帰郷。
- ・地元で起業しようと考え、「駅前の足湯」で地元の高齢者から地域の口コミ情報や「地元愛がある」人が多いことを知り、事業の着想を得る。
- ・「ホッキ」「ぷらっと港市場」「港まつり」のステージ、「自然が豊か」などの魅力を総合的にパッケージして生かしたイベントの企画を構想し、起業に挑戦。

地域ブランドメッセージ案②

新しいモノ・コトをつくるとまこまい



平成29年度 市政レポーター 市長懇談会

「地域(まち)の魅力」について

第1回とまレポ活動実施結果

地理・気候

- ・アクセスがよい
- ・道が平坦で歩きやすい
- ・海が近い
- ・坂が少ない
- ・温泉が近い
- ・札幌が近い
- ・涼しい

レジャー・施設

- ・アルテン
- ・バーベキュー（屋内、屋根）
- ・金太郎池
- ・ぷらっと港市場
- ・道の駅
- ・足湯
- ・公園が多い
- ・パチンコが多い
- ・サークルが充実している

情報発信

- ・情報発信力が弱い
- ・市のHPが文字ばかりで見にくい
- ・もっと苫小牧のよいところの情報を教えてほしい
- ・イオンに地域の情報を知る場所がほしい
- ・SNSタグ発信者へプレゼントをしては

観光資源

- ・埋もれた魅力が多い
- ・王子製紙の見学
- ・若者にとっての魅力・文化的なもの
- ・宿泊して見るもの

移動手段

- ・市内の移動充実を
- ・行事への無料バスの運行を
- ・中央インター

イベント・グルメ

- ・イベントが多い（キャラフェス、野外フェス）
- ・ホッキが名物
- ・しばれ焼きが独特
- ・水がおいしい
- ・グルメが少ない

公共施設等

- ・サンガーデンが無料
- ・図書館が充実
- ・病院が多い
- ・教育機関が多い
- ・駅前に活気がない

交流

- ・世代、地域交流
- ・昔からの住民と転入者との情報交換
- ・年齢関係なく集える屋内施設がほしい
- ・子育て世代向け全天候型施設
- ・お母さん達の集い場所
- ・高齢者の集う場所

地域への人の流れ

- ・市内から市外に行く人は多いが逆は少ない
- ・苫小牧目当てに来る人がとても少ない
- ・苫小牧に住む気にさせる
- ・苫小牧に行こうをつくろう
- ・市外から人が来るようなイベント
- ・広域での活動
- ・観光、自然エネルギーで雇用をつくる

その他

- ・アイデアのある市民が声を届けられる環境
- ・イベントが多いので、アーケードがほしい
- ・パチンコ以外に年配者が遊ぶ場が必要
- ・知恵を持っている高齢者
- ・子育てしやすい、住みやすいまち

（1）まちの魅力について

- 苫小牧には「自然豊か」「交通の便がよい」「商業施設が充実している」などの良さがあるが、生活に余裕がなければ苫小牧の良さを楽しむ気にもなれない。観光客や移住希望者にはアピールポイントになり得るが、肝心の市民が活用しきれていない。市の貧困問題を市民が共有し、助け合いの気持ちも醸成できるようになれば、市民の一体感も強固となっていくのでは。市民力が高まれば、苫小牧に住み続けたい、道外から苫小牧に移住したいという魅力発信のベースが出来上がると思う。
- 「日本一の紙のまち」と言いながら、定着していない。駅前商店街のアーケードがなくなったこともあり、雨の日にイベント等で利用できる屋外施設がなく、紙フェスティバルも会場規模が縮小してしまい、「紙のまち」とは言い難い。「紙のまち」をアピールする意味でも、王子製紙の紙を利用して巨大なオブジェを作って展示してはどうか。紙の歴史資料を駅通路または人の集まる場所に展示してはどうか。

（2）情報発信について

- さまざまな魅力があり市外から遊びに来る友人も楽しんで行くが、魅力をアピールする力が弱い。市のホームページやとまチョップの SNS は見づらいので、もっとおしゃれで見やすいホームページや SNS にした方がよい。
- 市のホームページや観光情報ページには写真が少なく、行った場合の想像がしにくく、わくわくさせられない。また写真も小さく迫力のなさを感じる。情報発信にソーシャルメディアをもっと活用し、広報では捉え切れていない若者の関心を惹くことが必要。SNS をきっかけに興味を持った人が閲覧するホームページや観光情報ページの見やすさも重要。また、SNS で「#（ハッシュタグ）」をつけて定期的に写真コンテストを行ってはどうか。

（3）まちの力について

- 「7年後の 2025 年問題が深刻化させない力」「障害者・難病患者・高齢者が安心して暮せるバリアフリー町づくり力」「自助・共助・公助の体制が完成した町づくり力」

(4) まちづくりへの参加について

- 苫小牧に住んでいる若い世代でまちづくりに対してアイデアを持っている人がいると思うので、もっと気軽にアイデアを出したり、実際に活動したりする機会がほしい。
- 実際に意見で出た場所に足を運び、現場を知ること魅力を見つめ直す上で重要。
- まちの魅力について不満に感じていることも話合い、改善策を導き出すことも必要。

(5) その他

- 元気な高齢者がもっと活躍できる場所が必要。
- 高齢者福祉サービスと子ども食堂とを連携させたような施設があれば、高齢社会での年齢による隔たりを解消し、共存する暮らしについての教育の場として期待できるのでは。

5 レポーターからの意見と市の考え方

意見書で提出された意見を項目別にまとめています。

(1) まちづくりに対する提案

ア 情報発信について

①ソーシャルメディアをもっと活用し、広報では捉え切れていない若者の関心を惹くことが必要。SNS をきっかけに興味を持った人が閲覧するホームページや観光情報ページの見やすさも重要だが、市のホームページや観光情報ページには写真が少なく、行った場合の想像がしにくく、わくわくさせられない。また写真も小さく迫力のなさを感じる。それらの写真を集めるためにも、SNS を活用し、「# (ハッシュタグ)」をつけて定期的に写真コンテストを実施する等により「次は自分の写真が掲載されるかもしれない」と思ってもらうことで、継続的な効果も期待できると思う。

【市の考え方】

(総合政策部 秘書広報課)

若い世代にいかに市政の情報に興味をもっていただくかということは、重要な課題の一つであると考えております。情報発信の方法として様々なメディアがありますので、それぞれの良さを生かし、より興味を持ってもらえる仕掛け作りに取り組むとともに、時代に流れに即したツールを見極めながら、有効的な情報発信に努めていきたいと考えております。

(産業経済部 観光振興課)

市としては、まちの魅力を効果的に PR するためにはホームページや SNS 等による情報発信が重要と認識しております。

今後は SNS を含め、観光客に人気の媒体を通じて、苫小牧ならではの自然や食、体験等の情報を広く発信することにより、交流人口の増加につなげていきたいと考えております。

②「自然が身近にある」、「海も山も一度に味わえる」、「安価で新鮮な海鮮が味わえる」、「個人の雑貨屋さんが充実している」、「地域のお祭りが面白い」などさまざまな魅力があり、市外から遊びに来る友人も楽しんで行くが、魅力自体があまり知られておらず、アピールする力が弱い。市のホームページやとまチョップの SNS を見たが、見つらなかった。せっかくとまチョップもいるので、もっとおしゃれな見やすいホームページや SNS にした方が幅広い人たちに魅力を伝えていけると思う。

【市の考え方】

(産業経済部 観光振興課)

市としては、まちの魅力を効果的に PR するためにはホームページや SNS 等による情報発信が重要と認識しておりますので、より多くの方へ着実に伝えることができるよう、工夫してまいりたいと考えております。

(総合政策部 まちづくり推進課)

とまチョップは現在、Facebook・InstagramなどのSNSや、アメブロを利用しておりますが、今後もトレンドやニーズに合わせて、見やすく面白い内容を心掛けて更新していきたいと思っております。また、市のホームページに関しましては、とまチョップへの着せ替え機能などもございますので、是非御利用ください。貴重な御意見ありがとうございました。

イ 「紙のまち」の認知度について

「日本一の紙のまち」といいながら、定着していない。駅前商店街のアーケードがなくなったこともあり、雨の日にイベント等で利用できる施設がなく、紙フェスティバルも会場規模が縮小してしまい、「紙のまち」と言い難くなっている。「紙のまち」をアピールの意味でも、王子製紙の紙を利用して巨大なオブジェを作って展示してはどうか。また、紙の歴史資料を駅通路または人の集まる場所に展示してはどうかと思う。

【市の考え方】

(総合政策部 まちづくり推進課)

平成29年8月、まちなか再生総合プロジェクト(CAP)の事業として、室蘭工業大学及び小樽商科大学と連携し「日本一の紙のまち」をテーマとした集中講義を開催しました。学生達が実際に苫小牧のまち歩きや工場見学を行い、最後に「紙のまち」としてのまちづくりについて課題やアイデアの発表が行われました。ここで出された様々な意見について、今後のまちづくりの参考とすると共に、他部署との共有を図っていきたくと考えております。

(教育部 生涯学習課)

紙フェスティバルは、平成29年度に30回を迎え、記念イベントとして王子製紙工場見学会、歴代ポスター、写真展示を実施し、当日は3,000人を超える方々に御来場いただきました。いただいた御意見につきましては、今後の実行委員会においてお伝えしてまいります。

ウ まちづくりへの参加について

若い世代でまちづくりに対してアイデアを持っている人がいると思うので、もっと気軽にアイデアを出したり、実際に活動できたりする機会がほしい。

【市の考え方】

(総合政策部 まちづくり推進課)

市では、まちなかのにぎわい創出等を目的とし、「まちなか再生総合プロジェクト(CAP)」に基づいて各種事業を展開しておりますが、平成29年度からスタートしたCAP3では、子供たち、若い世代、子育て世代と一緒に、日常的なまちなかのにぎわい創出を目指し、まちづくりを進めております。実際に高校生が主体となり企画・実施したハロウィンイベントの開催や、まちづくりフォーラム・地域づくり研修会といった、様々な年代や立場の方がアイデアを出すことができる場の創出など、様々な取組を行っておりますので、今後

もこういった機会を増やし、広くアイデアを取り入れながら、まちづくりを進めてまいりたいと考えております。

(総合政策部 協働・男女平等参画室)

若い世代の方の声を聴き、まちづくりを進めていくことは、市政運営において重要であると考えています。今後もさまざまな広聴事業を展開していく中で、若い世代にも意見が出しやすくなるような工夫・仕組みづくりを心掛けていきたいと考えています。

エ 市民の力、つながりについて

① 苫小牧には「自然が豊か」「交通の便がよい」「商業施設が充実している」などの良さがあるが、生活に余裕がなければ苫小牧の良さを楽しむ気にもなれない。観光客や移住希望者にはアピールポイントになり得るが、肝心の市民が活用しきれていない。

また、苫小牧は東西に40キロと物理的に広がってしまい、市民同士の一体感が薄い。子ども食堂や地域食堂、フードバンクが連携して、地元メディアにも取り上げてもらい、まだまだ認知度の低い市の貧困問題を市民が共有し、助け合いの気持ちも醸成できるようになれば、市民の一体感も強固となっていくのではないかと思う。

【市の考え方】

(福祉部 総合福祉課)

市では、生活困窮者自立支援法が施行された平成27年4月から「生活困窮者自立相談支援機関」を直営で運営しています。その後の2年間で苫小牧市に訪れた新規相談者は千人を越えており、道内でも非常に多い相談数となっています。また、相談業務では、ただ市役所で相談を待っているだけでなく、積極的に家庭訪問も行っています。

相談の中では、相談者が複合的な課題を抱え、事態が複雑化していることが少なくない状況があります。そして、介入が遅れば遅れるほど、支援が難しくなってしまうのが現状です。

今後は、周知活動をさらに強化すると共に、地域住民や関係機関との連携を今まで以上に深め、早期の介入に繋がるように取り組んでまいりたいと考えています。

② 元気な高齢者の方がもっと活躍できる場所が必要だと思う。

【市の考え方】

(福祉部 総合福祉課)

少子高齢化時代を迎え、今後ますます高齢者の社会参加の場を提供する役割が大きくなると考えております。

本市では、市民みんなで助けあい、市民みんなで支えあう、「活みなぎるふくしのまちづくり」に取り組んでいます。

地域の高齢者が、長年培った知識・経験・技能を生かし、自主的にその生活している地域で連帯して、豊かで積極的な高齢期の生活と社会参加による生きがいの充実が図れるよう、今後も取り組んでまいりたいと考えています。

③高齢者福祉サービスと子ども食堂とを連携させたような施設があれば、高齢社会での年齢による隔たりを解消し、共存する暮らしをしていけるような教育の場としての役割を期待できるのではないかと思います。

【市の考え方】

(健康こども部 こども支援課)

子供の貧困や孤食の解決等を目的として、NPO法人等の地域団体が主体となった子ども食堂が、食事や学びの場、様々な催しを子供たちに提供するコミュニティとして、ここ数年で全国に広がりつつあり、本市においても様々な民間団体等によって開催されています。本市における子ども食堂は、町内会館や団体の施設等で月1回程度、創意工夫しながらそれぞれの団体の理念に基づき、多様な形態で運営されていると認識しております。子ども食堂では、ボランティアなどを含めた世代間の交流が図られており、また、児童センターにおいても、イベントをとおして、子供たちと地域の方との交流が図られております。本市では、各団体の理念を踏まえつつ、地域を通じた世代間の交流の促進が図られるよう、開催の後援や北海道の施策の情報提供などにおいて連携・協力をしてまいります。

(福祉部 総合福祉課)

本市では高齢者がレクリエーションを通じた健康増進や教養の向上及び健康上の相談などを行える施設として、高齢者福祉センターを設置しております。

当センターは、子育て支援センターや健康支援センター、教育センターを配置する複合施設である教育・福祉センターの1階に設置しており、多世代が利用する施設であることから、利用者同士の関わりや異世代交流が図れるようなイベントの開催などの取組をすすめております。

また、町内会や老人クラブ等の地域社会の中でも、子ども達と高齢者との世代間交流や地域全体で支え合う体制づくりに取り組んでおり、今後も関係機関や団体と連携を図りながら、誰もが住みなれた地域で生き生きとした生活が送れるよう、共に生きる社会の実現に向けて取り組んでまいります。

④多世代で交流できる場所が少ない。コミセンでは多世代の利用者が多いが、個々のイベントは世代別に色分けされている印象なので、おばあちゃんによる子どもを対象にしたおはじき教室やおじいちゃんと子どもの将棋指しなど、常設で高齢者と子どもとの交流行事があってもよいのではないかと思います。

【市の考え方】

(市民生活部 市民生活課)

貴重な御意見ありがとうございます。

苫小牧市コミュニティセンターでは、世代間交流事業として「だれでも囲碁将棋ひろば」を実施しているほか、地域老人会ご協力のもと、子どもを対象とした料理教室を開催しております。

今後も指定管理者に対し、自主事業として世代間交流事業の開催を働きかけるとともに、事業内容の周知方法等については、指定管理者と協議の上、幅広い世代の方に利用していただけるよう検討してまいります。

(2) 活動内容について

ア よかった点

- ①とまレポ活動に参加して、これまで知らなかった魅力や現実的な問題等について知ることができた。また、メンバーでそれらについて話し合うことができ、よりよい苦小牧市のまちづくりについて考えることができた。
- ②年代、性別、ライフスタイルの異なる方々の感じる魅力を知り、新しい発見があり、よかった。
- ③以前は苦小牧の魅力が聞かれても答えられる自信がなかったが、長く苦小牧に住んでいても気付かない魅力や視点を知ることができて、苦小牧にはまだまだ誇れることや魅力があるということを実感できて、とても良い経験になった。

イ 改善が必要な点

- ①活動数が少なかった。また、ワークショップだけでなく実地の活動もほしかった
- ②議論を深めるためにも、市職員にもワークのメンバーとして参加してほしかった。
- ③幅広い年齢業種の参加者がいたこと自体はよかったが、積極的な意見交換を行うためにも活動の初期に親睦会を開くなど、発言しやすい関係作りが必要だったのではと思う。
- ④実際に意見が出た場所に足を運び、現場を知ること魅力を見つめ直す上で重要だと思う。
- ⑤魅力を挙げて議論したが、不満に感じていることも話し合い、どうすれば魅力に変わるかも導きだしてみたかった。改善案をもとに行政で取り組むことが市政レポーター活動の目指すところでは。市民に少しでも還元できるような活動を今後も続けてほしい。
- ⑥よりスムーズで濃い内容の意見交換をするために、事前に内容と流れについて情報提供が必要だったと思う。

【市の考え方】

(総合政策部 協働・男女平等参画室)

レポーターの皆様には、「地域(まち)の魅力」をテーマに1年間活動した中で、地域の魅力を生かしたまちづくりについて、たくさんの御意見や御提案をいただき本当にありがとうございました。いただいた御意見などについては、今後の市政運営を行う上で参考とさせていただきます。

また、1年間の活動を通して、企画や運営に対する様々な改善意見をいただきありがとうございました。改善点としていただいた御意見や御要望につきましては、これからの市政レポーター活動や、ほかの広聴事業を企画・運営していく中で取り入れていきたいと考えています。

附 録

- 平成29年度市政レポーター名簿
- 苫小牧市市政レポーター設置要綱
- アンケート結果

第1回 とまレポ活動 参加者アンケート

第3回 とまレポ活動 参加者アンケート

まちの魅力おすすめ度チェック結果

平成29年度苫小牧市市政レポーター一名簿

(50音順・敬称略)

No	氏名
1	いとう たける 伊藤 健生
2	せと ななみ 瀬戸 七海
3	たかはし あやこ 高橋 綾子
4	たなか しんのすけ 田中 慎之介
5	にしかわ ひろし 西川 弘
6	はっとり ひろあき 服部 弘明
7	みやがた たくみ 宮形 拓未
8	やまかわ みつぐ 山川 貢
9	よしい じきどう 吉井 直道

任期 平成29年5月1日から平成30年3月19日まで

平成29年4月19日現在

(目的)

第1条 この要綱は、市政に関する市民の意見、提案等を把握するため、苫小牧市市政レポーター（以下「レポーター」という。）の制度を設けることにより、これによって得られた市民の意見を市政運営の参考とし、もって市民の理解が得られる市政を実現することを目的とする。

(職務)

第2条 レポーターは、次の職務を行う。

- (1) 市政に関する特定の事業に参加し、意見を述べ、提案をすること。
- (2) 市長懇談会や必要な会議等に出席すること。
- (3) その他市長が必要と認めること。

(委嘱)

第3条 市長は、公募に応じた者のうち、次の各号に掲げる者以外の者からレポーターを選定し、委嘱する。

- (1) 本市に住所を有しない者
- (2) 年齢満18年未満の者
- (3) 地方公共団体の長及び議会の議員
- (4) 公務員
- (5) 2期以上レポーター（市政モニターを含む。）の職にあった者

2 市長は、市政レポーターの制度を効果的に進めるため必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、レポーターを委嘱することができる。

(定数)

第4条 レポーターの定数は、10人以内とする。ただし、市長が特に認めた場合は、この限りではない。

(任期)

第5条 レポーターの任期は、委嘱の日から活動を終了する日までとする。

2 前項の活動を終了する日は、委嘱の日の属する年度を超えないものとする。

(委嘱の取消し)

第6条 市長は、レポーターが次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、委嘱を取り消すことができる。

- (1) 第3条第1号、第3号及び第4号のいずれかに該当するに至ったとき。
- (2) 辞任の申出があったとき。
- (3) 前2号に掲げるもののほか市長が必要と認めたとき。

(謝礼金)

第7条 レポーターへの謝礼金は、年額5,000円とする。

(意見、提案等に関する処理)

第8条 レポーターから提出された意見、提案等は、担当する部署へ回付する。

(庶務)

第9条 レポーターの庶務は、総合政策部政策推進室市民自治推進課において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、レポーターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 苫小牧市市政モニター設置要綱（平成18年4月1日改正）を廃止する。

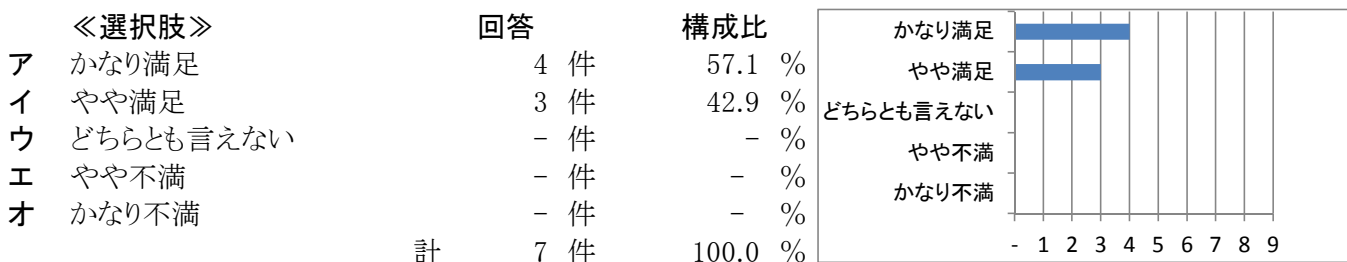
附 則

この要綱は、平成29年4月19日から施行する。

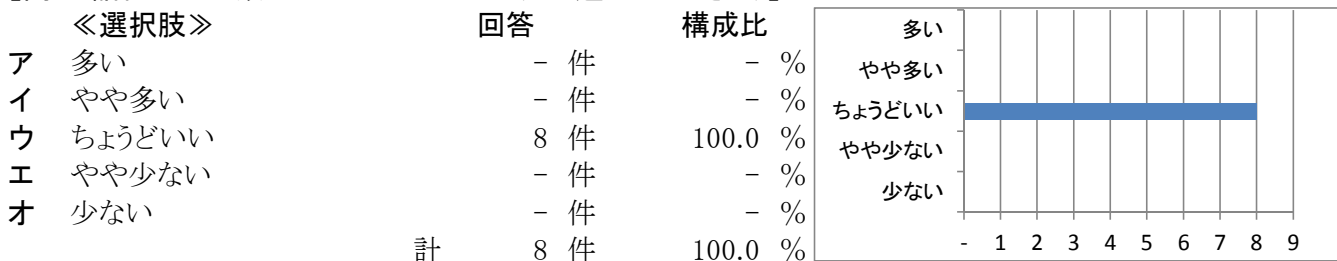
第1回 とまレポ活動 参加者アンケート

第1回 とまレポ活動 ワールド・カフェ(H29. 7. 10実施) 参加者アンケート

【問1 活動にご参加いただいた感想をお聞かせください。(1つ選んでください)】



【問2 話し合いの人数はいかがでしたか？(1つ選んでください)】



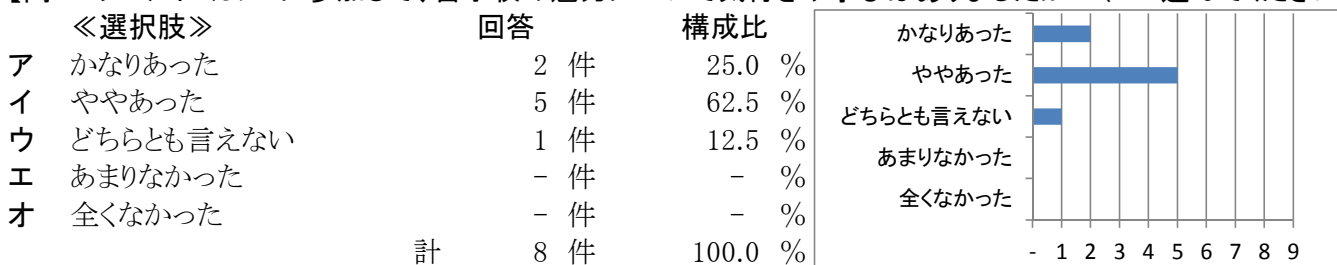
【問3 全体の時間配分はいかがでしたか？(いくつでも)】



適当でない理由

【もう少し話せた、短く感じた】

【問4 ワールド・カフェに参加して、苫小牧の魅力について気づきや学びはありましたか？(1つ選んでください)】



【問5 よかったと思う点があれば、教えてください。】

- ・ 最初の話し合いであったにも関わらず、ワールド・カフェ形式で行っていたため、学生である自分でも発言がしやすく、有意義な活動ができたと思います。
- ・ いろんな職種や年齢の方と苫小牧の魅力や今後の改善点を話し、苫小牧の魅力をさらに感じる事ができた。
- ・ 自分の知らない魅力を知れたこと
- ・ 他のレポーターの方々が、どういったことを思っているのか、感じているのか、考えているのかがわかった点
- ・ 若者の意見が聞けたこと。
- ・ 異なる世代の人と意見交換ができたこと。
- ・ 世代も違うメンバーそれぞれの考えも聞けて、刺激になった。
- ・ はじめて参加者としてしっかりお話できたので、どういう人か分かって良かったです。

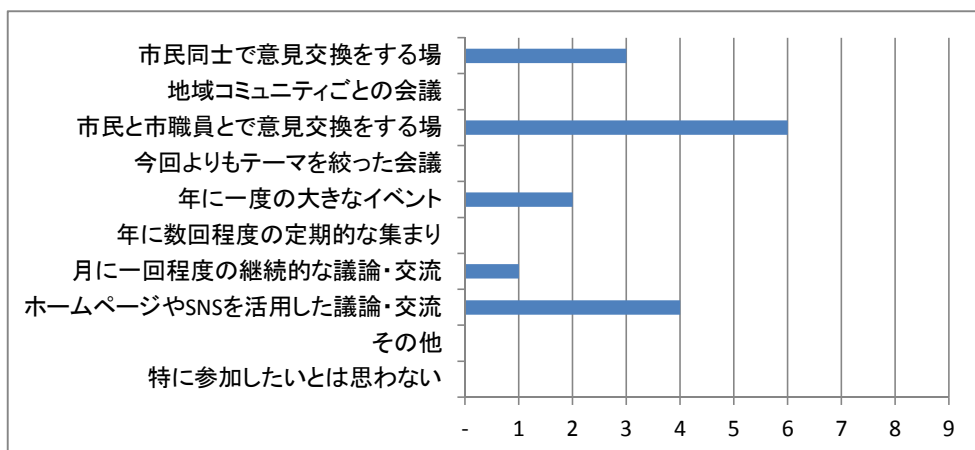
【問6 改善が必要と思う点があれば、教えてください。】

- ・話し合いをする際の人数は適当であると感じたが、もう少し多くの意見を聞きたいと思ったので、もう1つのグループがあってもいいと感じました。
- ・今回でた意見が、実際に実現していったり目に見える形で改善していけばいいなと思います。
- ・なかなか会話に入らない人、ずっと話してしまう人がいることが気がかりでした。司会？が居ないので仕方のないことなのかもしれませんが。
- ・予備的知識が無かったため、スピード感が無かった。あえて、IR構想の件には、触れませんでしたでしたが、気を使ってしまった。IR構想が、実現できたら、未来の構想がかなり変わってしまうため。
- ・グループ発表のほかに、個別に前に出て、自分なりのプランを発表する時間があっても良かったかもしれない。
- ・ワールドカフェ自体に不慣れな方が多く、話なれている方が一方的に話してしまう場面があった為、特に学生が話しやすい形をとれるようにできれば良いと思いました。

【問7 今後もまちづくりについて、話し合う機会があれば参加したいと思いますか？(いくつでも)】

《選択肢》	人数	構成比
ア 市民同士で意見交換をする場	3 人	18.8 %
イ 地域コミュニティごとの会議	- 人	- %
ウ 市民と市職員とで意見交換をする場	6 人	37.5 %
エ 今回よりもテーマを絞った会議	- 人	- %
オ 年に一度の大きなイベント	2 人	12.5 %
エ 年に数回程度の定期的な集まり	- 人	- %
オ 月に一回程度の継続的な議論・交流	1 人	6.3 %
カ ホームページやSNSを活用した議論・交流	4 人	25.0 %
キ その他	- 人	- %
ク 特に参加したいとは思わない	- 人	- %
計	16 人	100.0 %

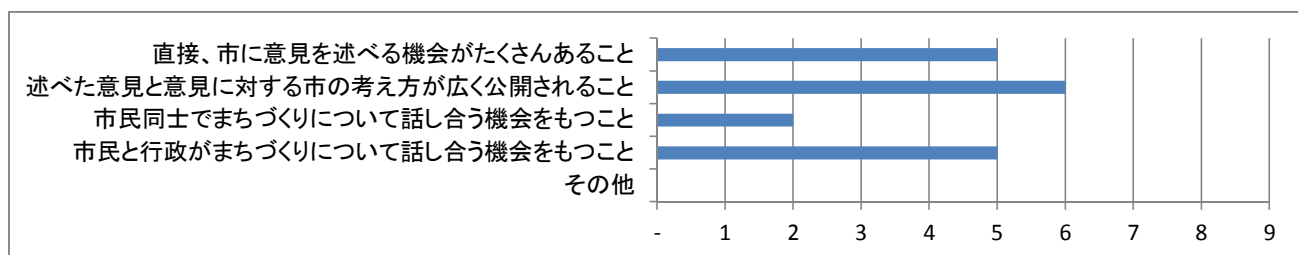
※延べ人数



【問8 市民の声をまちづくりに反映していくためにあなたが重要だと思うことを教えてください。(いくつでも)】

《選択肢》	人数	構成比
ア 直接、市に意見を述べる機会がたくさんあること	5 人	27.8 %
イ 述べた意見と意見に対する市の考え方が広く公開されること	6 人	33.3 %
ウ 市民同士でまちづくりについて話し合う機会をもつこと	2 人	11.1 %
エ 市民と行政がまちづくりについて話し合う機会をもつこと	5 人	27.8 %
カ その他	- 人	- %
計	18 人	100.0 %

※延べ人数



【問9 その他、感想やコメントがあれば、お願いします。】

- ・とても有意義な活動ができたと思いましたが、まだまだ苦小牧について知らないことが多いと感じたため積極的に情報を得ていこうと感じました。
- ・私の周りでも今回の話をした際に、ここをもっとこうしていきたいという意見が結構あがりました。みんな苦小牧の今後についてや、自分たちの住みよいまちづくりに興味がある人が多いと実感します。そういう意見が実際にどれくらい出て、どう改善していったらいいのか意見を出して集計して終わりではなく、もっと具体的な実現にむけた動きがあれば行動にうつしていきたいなと思いました。
- ・IR構想の説明会に参加しましたが、反対のグループがすでに出来ていて、反対意見しか出なかった。進行者は、反対と賛成意見を調整しないといけかい。
- ・いろいろな人と意見を交換する場に始めて参加したので、さまざまな立場の人のいけんが聞けて有意義だった。
- ・プロジェクトチームみたいのを作って、調査したり、定期的に会合を持つ。その状況を広報に掲載する。普段のフィールドワークの中でハッピーエピソードを収集。広報やフェイスブック等に掲載する。
- ・活動外で、とまレポ参加者や市の方々との懇親会があれば、よりお互いのことを知り、活発な意見交換ができるようになるのではないかと思います。

第3回 とまレポ活動 参加者アンケート

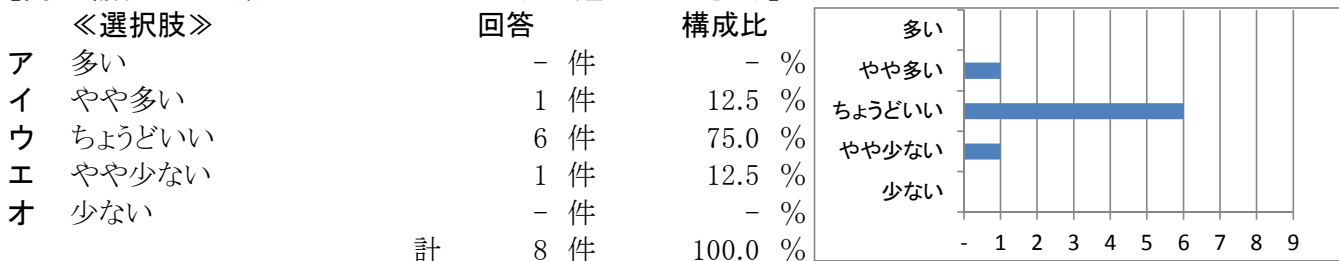
まちの魅力おすすめ度チェック結果

第3回 とまレポ活動 魅力創造ワーク(H30.1.29実施) 参加者アンケート

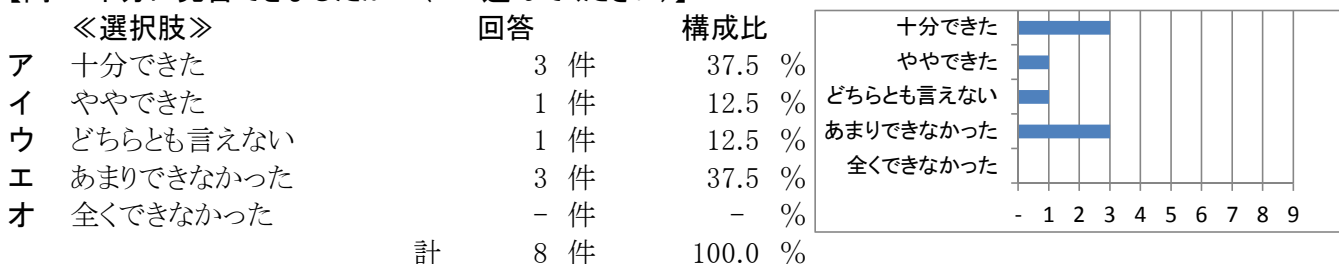
【問1 活動にご参加いただいた感想をお聞かせください。(1つ選んでください)】



【問2 話し合いの人数はいかがでしたか？(1つ選んでください)】



【問3 十分に発言できましたか？(1つ選んでください)】



【問4 全体の時間配分はいかがでしたか？(1つ選んでください)】



【適当でない理由】

- ・ 短いです。
- ・ もう少し時間が欲しかった。
- ・ もう少し時間が欲しかった。出すだけならできるが、まとめられることができなかった。

【問5 よかったと思う点があれば、教えてください。】

- ・ 色々な職業や年齢、立場の人同士で議論ができた。
- ・ 他者が魅力をどう思っているか知ることができ、新しい発見があった。
- ・ 雰囲気をよくしてくれていたため、発言がしやすかった。
- ・ 自分の視点とは違う視点・考えを知る良い機会となった。自分の課題が発見できた点。
- ・ A・Bグループで結論に違いが出たこと。
- ・ 若い世代のメンバーの意見が聞けて良かった。
- ・ 段階を踏んで、その都度グループで相談できるのが良かった。十分に話し合えた。

【問6 改善が必要と思う点があれば、教えてください。】

- ・ 魅力創造ワークの全体図を事前に伝えていたらスムーズに進められたと思います。
- ・ 新しいことをやるときには事前に行ってみて、問題点を見つけておいてほしい。
- ・ 時間をもう少し多めにとってほしい。
- ・ フセンを貼るには紙が小さい。

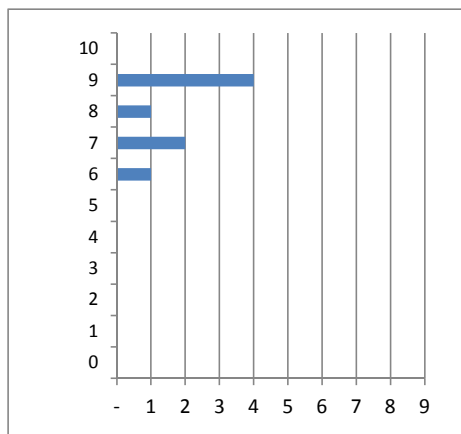
【問9 その他、感想やコメントがあれば、お願いします。】

- ・ なかなか取り組まないことで難しかったですが、楽しかったです。
- ・ 休憩が多く、やりやすかったです。時間もちょうどよい。
- ・ 手順が分かりやすく良かったと思う。

第3回 とまレポ活動 魅力創造ワーク(H30.1.29実施)
地域(まち)の魅力おすすめ度チェック結果

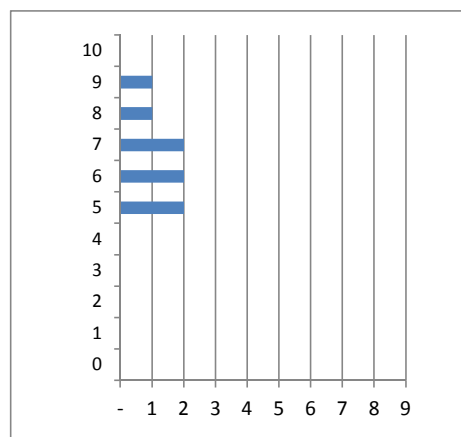
【問1 あなたは地域(まち)の魅力を、友人にどの程度お勧めしたいですか？(1つ選んでください)】

選択肢	回答	構成比
非常におすすめしたい	10 件	- %
	9 件	12.5 %
	8 件	12.5 %
	7 件	25.0 %
	6 件	25.0 %
	5 件	25.0 %
	4 件	-
	3 件	-
	2 件	-
	1 件	-
全くおすすめしたくない	0 件	-
計	8 件	100.0 %



【問2 本日の活動を振り返って、あなたは地域(まち)の魅力を、友人にどの程度お勧めしたいですか？(1つ選んでください)】

選択肢	回答	構成比
非常におすすめしたい	10 件	- %
	9 件	50.0 %
	8 件	12.5 %
	7 件	25.0 %
	6 件	12.5 %
	5 件	-
	4 件	-
	3 件	-
	2 件	-
	1 件	-
全くおすすめしたくない	0 件	-
計	8 件	100.0 %



地域推奨意欲指数の算定

【問1について】	回答	構成比
推奨者(10~8を選択した者)	2 人	25.0 % (a)
批判者(5~0を選択した者)	2 人	25.0 % (b)
その他(7,6を選択した者)	4 人	50.0 %
計	8 人	100.0 %

推奨者比率(a)	-	批判者比率(b)	=	地域推奨意欲指数
25	-	25	=	0

【問2について】	回答	構成比
推奨者(10~8を選択した者)	5 人	62.5 % (a)
批判者(5~0を選択した者)	- 人	0 % (b)
その他(7,6を選択した者)	3 人	37.5 %
計	8 人	100.0 %

推奨者比率(a)	-	批判者比率(b)	=	地域推奨意欲指数
62.5	-	0	=	62.5

結果

魅力創造ワークを実施した結果、回答者全体として地域推奨意欲指数が0から62.5に向上した。

※参考書籍『シティプロモーションでまちを変える』(p.35~36)で示す計算方法による。